

## 1. 前期学校自己評価と今後の取組

前期の自己評価では、主に教育の質・記録の定着や教員の働き方に関する課題が指摘されました。

---

### C 評価(課題)を受けた主な項目

#### ○安心・安全

- ・熱中症対策が不十分であった。

#### ○専門性

- ・食育指導の計画的な実施が難しかった。
- ・授業カードや単元カード作成・蓄積が不十分であった。
- ・ICT 活用に慣れない教員への支援が不足していた。

#### ○チーム学校

- ・職員の多忙感が強かった。

### 今後の対応策

#### ○安心・安全

- ・熱中症アラートを確認する。
- ・屋外活動の時間短縮や、活動場所の屋根下・屋内への切り替えを検討する。

#### ○専門性

- ・食育を年間指導計画に明確に位置付け、計画的に実施する。
- ・授業カードや単元カードの作成と保存を徹底する。
- ・後期に ICT 活用に関する研修を実施する。

#### ○チーム学校

- ・業務改善アンケートに基づき、業務を整理する。
  - ・適正人数での授業実施に向けて、生徒の自立を促すとともに、授業に入る教員の数を見直し削減し、職員室で仕事をする時間を確保する。
  - ・役割分担を明確化し、企画者のみで抱え込まないようにする。
- 

## 2. 伊豆松崎分校の取組と今後の課題

地域との連携強化と、地域資源を活用した作業学習の変革が焦点となっています。

---

## 現在の取組と成果

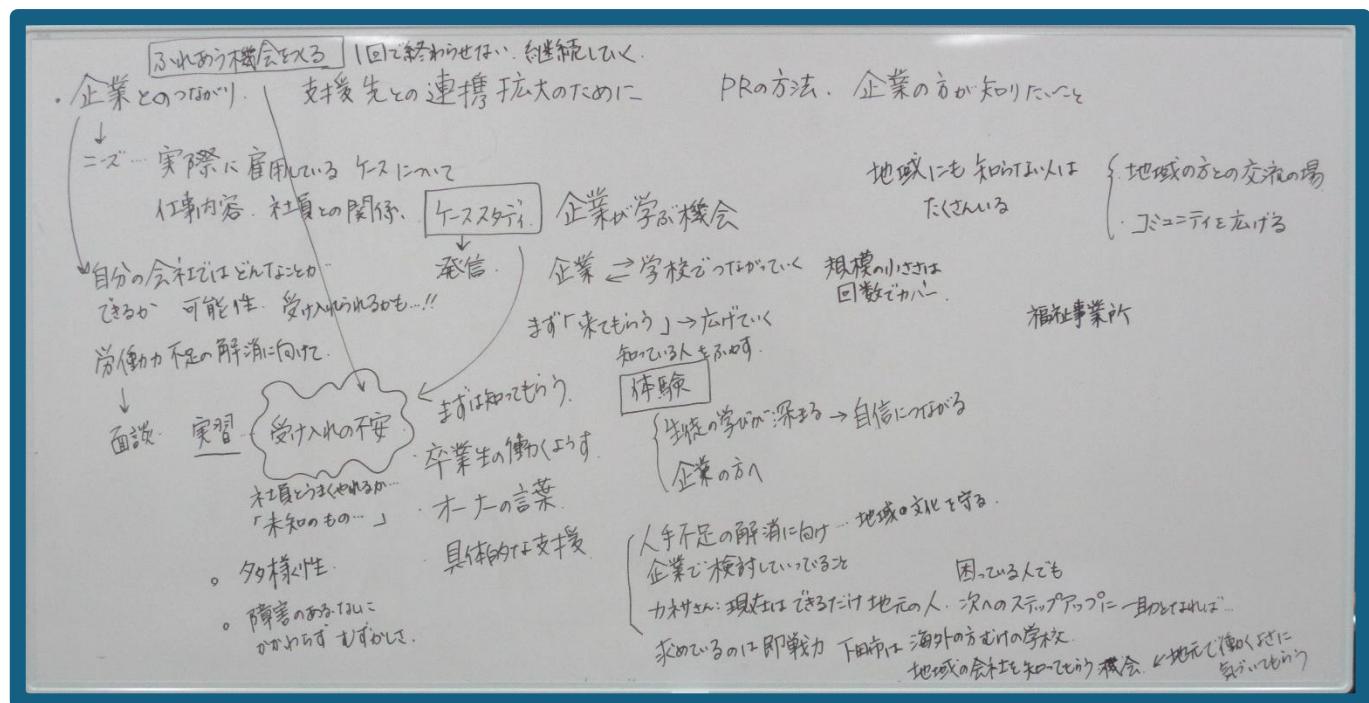
## ○ふれあい学校見学会(企業向け学校見学会)

- ・参加企業の受付、案内、お茶出し、座談会等をとおして、地域企業と生徒が直接交流できる学校見学会を実施した。
  - ・生徒の真面目な働きぶりに企業側が感動し、採用への関心が高まるなど、学校と地域企業間の「壁」を壊す大きな成果があった。
  - ・生徒にとっても、外部の方とのコミュニケーションや立ち居振る舞いを実践的に学ぶことができ、大変貴重な体験になった。

## 今後の課題に対する検討

## ○地域との連携に向けて

- ・障害のある方との交流機会が少なく、企業側は関わり方が分からず、「壁」を壊すため、生徒と関わるような機会を増やした方がよい。
  - ・企業に対して、生徒が「具体的にできる仕事の事例」や卒業生の「活躍事例」を提示すると、受け入れに対する漠然とした不安が解消されるのではないか。また、雇い主の方のコメントが聞けると、より安心できるのではないか。
  - ・学校としても「ふれあい学校見学会」を含め実際の生徒の様子を見ていただける機会を多く設定し、発信を続けていきたい。つながりを持ち続けたい。



## 作業学習の来年度の方向性

## ○作業学習の変革(ものづくり作業)

- ・多様な実態に合わせ全員が活躍できる作業学習を目指して検討している。
  - ・農園芸班では水耕栽培や多肉植物栽培などの室内作業の検討をしている。
  - ・新規エコワーク系では、地域の喫茶店やコンビニからコーヒーかすを集めて脱臭剤を作ることや、新聞紙をシュレッダーで細かくして油取りを作ることを検討している。